

令和2年度 第3回駒ヶ根市地域公共交通協議会 会議録

令和2年12月22日（火）午後3時30分～
駒ヶ根市役所 本庁舎 2階 大会議室

【出席委員】 22名

1 開会（企画振興課長）

2 会長あいさつ

- 前回承認をいただいたマスタープランの方向性に沿い、今回は地域公共交通計画の素々案を作成しました。内容をご確認いただき、ご意見をいただければと思います。
- 併せて、こまタクの運行にあたり取り組んでいる地域公共交通確保維持改善事業の事業評価をご確認いただき、国へ報告をしたいと思います。
- 新型コロナウイルスの感染拡大、国のGotoキャンペーンの中止と、交通事業者の皆様にとって厳しい状況が続いています。新たな生活様式を守り、その中で地域の生活の足も守っていく。そういった観点から、本日はご意見を頂戴したいと思います。

3 協議事項

（1）地域公共交通確保維持改善事業 事業評価（案）

資料1-1

資料1-2

（質疑等なし） ⇒ 全員挙手（承認）

（2）駒ヶ根市地域公共交通計画（素々案）について

資料2

<山崎寛一委員>

- こまタクの固定ダイヤの解除について、実現すれば今以上のコストがかかると思うが、データを見ると乗客は少なく、稼働率は低い状況。交通不便者支援の視点からは良い案ではあるが、コストばかりかけて空回りするリスクを感じる。ポイントを絞ってコストをかけていくべきではないかと感じる。

<北原和雄委員>

- JR飯田線の現状について、高齢者や障がい者の安全利用に配慮が欠けていると感じる。駒ヶ根駅ではホームと車両の高さに15cmほどの高低差があるが、伊那市駅では高低差がない状況。広域の協議会で検討し、改善を図って欲しい。

<事務局>

- JR飯田線活性化期成同盟会という組織があるため、そこからJR東海へ要望を上げていきたい。

<野村満委員>

- 竜東地区の拠点活用とは、今後新たに拠点施設ができた段階で、そこと中心市街地を結ぶということか。

<事務局>

- 拠点施設は、現状存在するものも含め、今後新たにできる施設や観光資源などを広く捉えており、現段階では具体的な施設、箇所は設定していない。

<野村満委員>

- 中沢では家から拠点施設までの距離があるため、拠点施設まで行くのが厳しい。観光タクシーはそういった人たち向けのものではないのか。

<事務局>

- 今後検討していく中で、途中に停留所を設けるなど、柔軟な活用を考えていきたい。

<野村満委員>

- 今までの経過から現在はこまタクを柱としているが、そのような状況の中で路線バスも運行するのはうまくいくのか。理想は、こまタクの利便性向上だと思うが、一般のタクシーとの棲み分けもあり難しいと感じる。交通弱者が少なくなる効果的な施策をお願いしたい。

<佐々木凜太郎委員>

- 前回計画で実現できていない項目の原因がクリアになっていない。新計画へ繋げるにあたり、前回計画の課題を明確に示した方が良い。
- こまタクと乗用タクシーの今後の境目が見えない。こまタクの固定ダイヤ解除の妥当性など検証が必要ではないか。併せて、割引タクシー券との役割分担も見えない。乗用タクシーの活用をもっと考えてもいいのではないか。
- こまタクの運行率向上に固定ダイヤ解除がどう繋がるのかが分かりづらい。便数が少ないのか、認知度の問題なのか、はっきりしないように感じる。
- こまタクの利便性向上と並行し、定時路線バスも実施していくはボリュームアップし過ぎな面もあり、心配を感じる。
- 竜東地区について、観光タクシー、こまタク、路線バスと交通手段が一気に増えるのは急激な感じを受ける。うまく整理し、一本化も含め検討の余地があるのではないか。
- P 6 9 のマネジメント事業については、施策として位置付けなくてよいと思う。
- 目標値について、5-1の行政負担額の記載は、現行ならこの額、新たな事業実施となったらこの額、というように見直しを含めた具体的な表示にした方がよい。また、収支率の観点も加えた方がよい。

4 その他

<事務局>

- 今回の素々案について、ご意見がある場合は、1月18日（月）までに事務局へお願いいたします。

5 閉 会（企画振興課長）

【終了時間：16時30分】